

赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援

20時間基礎セミナー

セッション10：特別な援助が必要な赤ちゃん

revised 2016乳

1

セッションの目的

参加者は次のことを習得する

1. 早産児・低出生体重児,特別なニーズのある赤ちゃんの母乳育児
2. 2人以上の赤ちゃんの母乳育児
3. 低血糖・黄疸・脱水などの予防・対処法
4. 母乳以外の飲食物の医学的適応

2

1. 早産や低出生体重で生まれた赤ちゃん,病気の赤ちゃんへの母乳育児

3

裕美さんのストーリー

- 裕美さんの赤ちゃんは（予定日より）4週間早く生まれました
- 赤ちゃんの状態は落ち着いていて,回復室で母乳を飲み始めました
- 裕美さんは母乳を飲むことができることに驚き,赤ちゃんを守ることになる初乳をいくらか飲んだことをうれしく思いました
- 看護師は彼女に,早産で生まれた赤ちゃんを母乳で育てることは大変重要であると話しました

4

早産児,低出生体重児,特別なニーズ
のある赤ちゃん,病児にとって,
母乳育児はどうして特に重要なのでしょうか？

5

早産児/低出生体重児/特別なニーズ のある赤ちゃんにとっての母乳の重要性

- 母乳の成分
 - ✓ 免疫防御因子ー感染予防
 - ✓ 成長因子ー児の消化管や他の組織を発達させる,下痢の後の治癒促進
 - ✓ 乳汁を消化・吸収を容易にする酵素
 - ✓ 脳の発達を助ける特別な必須脂肪酸

6

早産児/低出生体重児/特別なニーズのある赤ちゃん にとって母乳育児の重要性

- 赤ちゃんを落ち着かせる
- 採血時の痛み・赤ちゃんの病状に関連した痛みを緩和する
- 母親に赤ちゃんの世話をする上での重要な役目を与える
- 赤ちゃんを心地よくさせる
- 家族とのつながりの維持

7

特別なニーズのある赤ちゃん にとっての母乳の恩恵

- 神経学的な症状、循環器の問題や口唇裂・口蓋裂など特別な配慮を必要とする児・病児は、健康な赤ちゃん以上に母乳が必要
- 母乳育児は病気にかかっている月齢の大きな赤ちゃんや幼児にも恩恵がある

8

さまざまな「特別なニーズのある」赤ちゃん

- 経口摂取できない赤ちゃん
- 経口摂取できるが哺乳ができない赤ちゃん
- 哺乳できるが、必要とする全量を飲めない赤ちゃん
- 十分に哺乳できる赤ちゃん
- 母乳を全く摂取できない赤ちゃん

9

- 裕美さんの赤ちゃんは、呼吸状態に心配な点があるため新生児治療室へ
- 裕美さんは産科棟へ
- 裕美さんは赤ちゃんと離されたらどのように母乳をあげたらよいか心配しています

新生児治療室で
どんな母乳育児支援ができますか？

10

新生児治療室での母乳育児支援

- いつでもお母さんが赤ちゃんに会えるように手配
 - 母親にできるだけ赤ちゃんを訪問し、さわったり赤ちゃんの世話を促す
 - 母親が新生児治療室で赤ちゃんと過ごすとき赤ちゃんがさらされる病原体に対する防御因子を産生できる

11

肌と肌とのふれあい 「カンガルー・マザー・ケア」

- 母親に衣服の中に入れて胸に密着しておむつだけの赤ちゃんを抱くように促す
- 赤ちゃんは欲しがった時にいつでも乳房に向かえる
- 赤ちゃんの体温と呼吸を調整し発達を助け母乳産生が増加する

カンガルー・マザー・ケアの写真

12

図10-1
カンガルーマザーケア

13

母親を大切に

- 赤ちゃんの健康/生存のために母親の存在が大変重要
 - ✓ 赤ちゃんが入院中⇒母親も病院に
 - ✓ 母親が遠くから来院⇒病院に休憩場所
 - ✓ 赤ちゃんのそばに母親への適切な椅子
 - ✓ 母親へ飲食物の提供⇒施設に働きかけ
 - ✓ 両親の質問に答え根気よく説明
 - ✓ 「母乳/母乳で育てることは重要」と私たちが信じていることを両親に分かってもらう

14

母乳育児確立のための支援

- 出産後6時間以内に搾乳を開始
- 24時間に6回以上の搾乳
- まだ上手に哺乳できなくても早期から乳房のところで赤ちゃんが過ごすよう促す
- 必要な母乳をすぐに全量飲みとることを期待せず、「乳房になじむ」ということを母親に伝える
- 乳房と満腹感を結びつけさせるため経管栄養を与えながら乳房のところに抱く
- 赤ちゃんが母乳を飲むようになるまでチューブやカップで搾母乳（人工乳首の使用は回避）

15

赤ちゃんを乳房のところで抱く

- 瞼の下で素早い眼球運動が見られるようなちょうど目覚めはじめたときが良い
- 乳房のところで抱く
- 母乳を飲む準備ができれば赤ちゃんは舌と口で吸啜したり、自分の手を口までもってくるかもしれない
- 赤ちゃんが泣いてエネルギーを使い果たすことを避けるため、母親が授乳のタイミングを予測する方法を学べるよう支援する

16

早期産児の授乳姿勢のとり方

図10-3

17

母親に示す授乳姿勢:赤ちゃんを支える

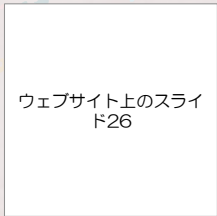
- 小さい赤ちゃんを抱く方法の一つ；母親の手で赤ちゃんの頭を支える、頭をつかまない
- 母親の腕で赤ちゃんの体を支え、赤ちゃんを母親の脇に抱える
- 飲んでいる乳房と反対側の手を使うことも可能

図10-3

18

母親に示す授乳姿勢:乳房を支える

- 一方の手で乳房を支え,赤ちゃんが乳房を口の中にずっと含んでいられるよう助ける
 - ✓ 乳房の上に親指, 乳房の下には他の4本の指を置く
- 母乳の出をよくするため, 赤ちゃんが飲むのを休むたびに乳房をさすったり圧迫したりする



ウェブサイト上のスライド26

19

授乳のとき予想されることを母親に説明する

- 赤ちゃんが哺乳するには長い時間がかかり授乳中は何度も休むこと
- 静かで急がせずゆったりと時間をとった授乳(1時間くらい)を計画していること
- 赤ちゃんは筋緊張が弱く,哺乳の協調がうまくいかないため,口一杯で飲み込んだり息が詰まりそうになったりすることもあること

20

授乳のとき注意すること

- 赤ちゃんが眠そう,ぐずったりした場合は,授乳の試みをやめる
 - ✓ 母親は飲ませ始めずに赤ちゃんを胸に抱き続ける
- できるだけ穏やかに授乳し続ける
- 赤ちゃんが母乳を飲もうとしている間,うるさい音,まぶしい光,なでる,軽く揺らす,話しかけることを避ける

21

母親と赤ちゃんが退院するための準備

- 効果的に母乳が飲め体重が増えている
- 母親が病院で退院前の2, 3日間を赤ちゃんと一緒に24時間過ごせる場所を提供するよう施設に促す
 - ✓ お母さんの自信につながる
- 赤ちゃんの母乳を飲みたがっているサイン,十分な量を摂取しているサインを母親が理解し,上手に抱いて吸着させられることを確認
- 母親が退院後に赤ちゃんの世話について助けを得る方法を知っているか確認
- 継続支援の手配

22

2. 2人以上の赤ちゃんへの母乳育児

23

2人以上に十分な母乳産生の鍵

- 母親は赤ちゃんが2人や3人でも十分な母乳を産生できる
- 時間,保健医療従事者や家族/友人からの支援や励ましが一番の鍵

24

母親に勧めること

- 上の子の世話や家事を手伝ってもらう
- 可能なときは、体力の温存のために添い寝をしながら授乳
- さまざまな種類の食事をとり、自分自身に気を配る
- 2人の赤ちゃんそれぞれ知ることができるよう、1人ずつの赤ちゃんとお過ごす時間をもつ

25

双子の赤ちゃんへの授乳

図10-4

26

双子の授乳

- お母さんは初めは抱き方と吸着に集中するため、赤ちゃんに別々に授乳したいかもしれない
- うまく吸着できるようになり母親が授乳時間を減らしたい場合には同時授乳
- 1人が効果的に飲めない場合
 - ✓ 乳房を変え両方の乳房での十分な母乳産生を維持する
- 効果的に飲めない赤ちゃん
 - ✓ 効果的に飲む赤ちゃんと同時に授乳することでオキシトシン反射が刺激され恩恵を受ける

27

きょうだい同時期授乳

- 新しく赤ちゃんが生まれても一般に上の子どもの母乳育児をやめる必要性はない
- 母親がよく食べ休息し自身に配慮すれば2人の子どもに十分な母乳を産生できる

28

母乳をやめずに母親が栄養をとる

- 母乳は小さい子どもの食事の主要な部分を占める
 - ✓ 母乳をやめると特に食事に動物性のものがない場合、小さい子どもはリスクにさらされる可能性がある
- 母親/新しく生まれた赤ちゃん/母乳を飲んでいいる小さい幼児に栄養を与える最も効果的な方法は母親が食べること
- 母乳を急にやめることは常に避ける必要がある

29

3. 臨床的にしばしば心配される合併症の予防と対処法

30

低血糖/黄疸/脱水の予防と対処法

- 出産後早期の肌と肌とのふれあい
- 出生後早期からの頻繁な直接授乳
- 母子同室によって頻繁に授乳
- 赤ちゃんが弱々しい/眠りがちで効果的に飲めない場合にはカップで搾母乳
- 水の補足は黄疸の軽減には効果がなく、むしろ増悪させる可能性がある
- 哺乳を確認するため最初の数日間はずべての赤ちゃんの授乳を観察する

31

新生児の低血糖

- 新生児の低血糖は頻度が高く、注意が必要
- 早産、在胎週数に比して体重が少ない赤ちゃん、病気の赤ちゃん、母親が病気の赤ちゃんは低血糖のリスクが高い
- 血糖値が低目でも病的な症状がない場合には健康な正期産児に有害という証拠はない
- 健康な正期産児は単に母乳不足というだけで低血糖を起こさない
 - ✓ 低血糖の症状を示した場合には、別の隠れた原因を探すべき

32

黄疸

- ほとんどの新生児に起き、血中のビリルビン値が上昇することで生じる。
- 不適切な人工乳の補足を避け、高ビリルビン血症の支援と母乳育児を両立させることがゴールである。
- 水分の補足は、黄疸をあげるリスクがある。
- 早期からの同室と頻回授乳は胎便の排泄を増やし、ビリルビンの排泄を助け、黄疸を軽くすることに繋がる。

33

脱水

- 早期からの同室と頻回授乳は、脱水（高ナトリウム血症）の予防に繋がる。
- 新生児の脱水予防のために余分に水分を与えることは適切ではない。
- 新生児期以降：下痢をしている赤ちゃんにはもっと頻繁に母乳を。
- 頻繁な授乳：水分、栄養を供給するとともに、免疫物質、成長因子（傷ついた消化管の再生を助ける）を提供。

34

呼吸に問題のある赤ちゃん

- 疲れやすいため、少量の母乳を何度もあげると良い
- 母乳で育てることで、赤ちゃんに栄養・免疫物質・カロリー・水分を与える
- 苦痛を感じている赤ちゃんに母親に安らぎを与える

35

神経学的な特徴のある赤ちゃん

- ダウン症などの神経学的な特徴をもつ赤ちゃんの多くでも母乳育児は可能
- 直接乳房から飲めない場合でも、母乳は大変重要
- 赤ちゃんを起こして何度も授乳し、授乳中は刺激をして覚醒させる
- 乳房と赤ちゃんの下顎を支えて赤ちゃんの顎を安定させ、しっかりした吸着を維持する
 - ✓ 親指と人差し指でカップのようにして下顎を支え、残りの3本の指で乳房の下をカップのように包んで支える

36

ダンサー・ハンド・ポジション



図10-5
ダンサー・ハンド・ポジション

図10-5
ダンサー・ハンド・ポジション

図10-5
ダンサー・ハンド・ポジション

37

ダウン症など神経学的な特徴のある赤ちゃんの授乳の特徴

- 授乳の方法に関わらず、授乳には長い時間がかかる可能性がある
 - ✓ 直接授乳だから時間がかかるわけではない
- 搾乳してカップで与える必要があるかもしれない
- 乳房と人工乳首の両方から吸啜するのを学ぶのは難しい可能性がある
 - ✓ 人工乳首やおしゃぶりを回避
- 十分に母乳を飲んでいても体重増加はゆっくりかもしれない

38

4. 母乳以外の食べ物を必要とする医学的な理由

39

「母乳が飲めない」赤ちゃんの3区別

- 明確な医学的適応がなく母乳育児を許可されなかったり中止させられたりすることがある⇒以下の3つに区別して考える
- ① 直接乳房から哺乳はできないが栄養の選択肢として母乳継続される赤ちゃん
 - ② 母乳もしくは通常の母乳代用品も含めたいかなる乳も与えてはいけない赤ちゃん
 - ③ 理由が何であれ母乳を入手できない赤ちゃん

40

①直接乳房から飲めない赤ちゃん

- 搾母乳をチューブ、カップ、スプーンで授乳
- 成長を助けるために脂肪が多く含まれている後乳を飲ませるようにする

41

②先天性代謝異常をもつ赤ちゃん

- ガラクトース血症、フェニルケトン尿症 (PKU) やメープルシロップ尿症のような先天性の代謝異常をもつ赤ちゃん
- 特定の代謝状態にふさわしい特殊な母乳代用品を部分的あるいは完全に用いて授乳する必要があるかもしれない

42

③母乳が入手できない赤ちゃん

- 母親が近くにいない、重篤な病気、死亡した等
- HIV陽性で情報を得た上で母乳で育てないと決断した場合⇒赤ちゃんには置換栄養が必要

(母乳以外のものが必要となる母体の健康についてはセッション13で学ぶ)

43

母乳だけで育てることができない医学的理由を持つ赤ちゃん

- 適切なトレーニングを受けた保健医療従事者が見て経過を追う必要がある
- 個別の栄養計画が必要
- 母親と家族は赤ちゃんにどのように栄養を与えたらよいかを明確に理解しておく必要

(資料「赤ちゃんは母乳代用品を必要としていますか」参照)乳

44

Take-Home Messages

- 特別なニーズをもつ赤ちゃん（早産・低出生体重児）：母乳は防御因子/栄養/成長と発達を助ける
- 母親に水分・食べ物・休息をとるよう配慮、赤ちゃんとの密な接触ができるよう援助
- 家庭でサインに応じた授乳を理解するため、母子同室、肌と肌との触れあいをして退院の準備
- 特別なニーズをもった赤ちゃんは早めにフォロー
- 2人以上の赤ちゃんの母乳育児の鍵：時間と保健医療従事者や家族/友人からの支援と励まし
- 低血糖/黄疸/脱水の予防：頻繁な授乳、母子同室、搾母乳のカップ授乳、水分補足の回避
- 母乳だけで育てられない医学的適応⇒専門家が継続援助

45